

監督力(仮)

～名門高校野球部監督●人に学ぶ“人間教育力”～

企画主旨

高校野球の監督とは、非常に特殊な職業です。ほとんどの監督が「野球部監督」以外に教員や学校職員といった肩書を持ち、部活動以外にも、野球部員以外にも、多くの学生を指導する立場にある「教育者」でもあります。

学生、特に思春期真っ只中の高校生にとって「教育者」と呼ばれる「大人たち」は、うっとおしい存在だったり、口うるさい存在だったり、煙たい存在だったり・・・とにかく「敵」になりがち。

しかし、高校野球、特に甲子園で活躍するような高校を率いる「監督」は、実に上手く選手をまとめ上げ、選手に愛され、尊敬されています。

血気盛んで、中学時代はチームの主力選手でお山の大将…そんな子供たちばかりが集まる野球名門校において、時には 100 人以上の部員たちの心をまとめ、ひとつの目標へと導く――

そのためには、ただ単に野球の「技術」を教え込むだけではなく、「人間教育」が欠かせません。そのことから「名監督」と呼ばれる人たちには、世の「親」、「上司」、「経営者」、「指導者」がもっとも知りたがる「人間教育力」に秀でた人材が多いのはあきらかです。

そこで、そういった「高校野球界の名監督」に、取材を行い、彼らがどのように子供に接し、心をつかみ、「人間力」を高めているのか。それを紹介する書籍をご提案致します。

スポーツ指導者以外にも、前述した教育者や経営者、部下の扱いに悩みを抱える上司や、子育て中の親など、幅広い層に訴求力があると考えられますし、「ビジネス書」としても読める内容です。

取材対象候補

高校野球界で「名監督」と呼ばれている監督

- ・小倉全由(日大三)
- ・渡辺元智(横浜)
- ・前田三夫(帝京)
- ・阪口慶三(大垣日大)
- ・和泉実(早稲田実業) など

内容構成案

高校野球の監督に備わる“人間教育力”

選手の心をつかみ、「監督を甲子園に連れて行きたい」と思わせ、時には「親以上」の感情を子供たちに芽生えさせる高校野球の監督は、どのように子供たちを教育・指導しているのか？

技術を教える前にやるべき事

野球の技術指導以前に、選手たちをまとめ上げたり、選手自身に聞く耳を持たせたり、思春期の子供の「心を開く」ために、各監督たちはどのような方法を用いているのか？これは、野球指導だけでなく、子供、社員、後輩との接し方、教育論にもつながります。

“魅力ある大人”になるために

選手に尊敬されるにはまず、自身が魅力ある大人になる必要がある。どうすれば、誰からも愛され、尊敬される人間になれるのか？

監督別“教育論”

各監督に、独自の教育論を教えてもらう。高校野球界には、父親的な監督、兄貴的な監督、笑顔で選手をまとめる監督、厳しい指導を行う監督など、色々なタイプが存在しているので、各々に独自の教育論を語って得れば、十人十色の多角的な「教育論」を引き出せます。

※上記のような内容を、複数の監督にインタビューしてまとめ、さまざまなタイプの「人間教育方法」を紹介することで、読者が自分に合った方法を探し出し、参考にする事ができます。

類書

監督と甲子園(シリーズ) (日刊スポーツ新聞社)

体裁 A5or 四六版 176～208P オール1色

企画・制作 有限会社 LAP